

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和8年第5週(1月26日～2月1日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	3週	4週	5週	5週	5週
インフルエンザ	●35.00	●59.67	●71.67	●34.08	30.03
新型コロナウイルス感染症	0.67	1.33	1.67	0.53	2.49
RSウイルス感染症	0.50	1.50	0.50	0.32	0.77
咽頭結膜熱	●8.00	●20.00	●9.50	1.03	0.29
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	2.00	1.00	3.45	2.82
感染性胃腸炎	7.00	13.00	17.50	8.10	9.42
水痘	0	▲1.00	0	0.19	0.31
手足口病	0	0	0	0.10	0.06
伝染性紅斑	●3.50	●2.50	●2.00	0.55	0.24
突発性発疹	0	0.50	0	0.29	0.24
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0.01
流行性耳下腺炎	0	0	0	0.03	0.03
急性出血性結膜炎				0	0
流行性角結膜炎				0.63	0.40
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.01
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.02
マイコプラズマ肺炎	0	1.00	0	0.08	0.30
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0.02
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0.04

急性呼吸器感染症(ARI)	69.67	91.67	102.33	92.88	86.68
---------------	-------	-------	--------	-------	-------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 インフルエンザが流行しています。

長崎県の第5週の報告数は1738人で、定点当たり報告数は34.08となりました。3週続けて増加し、警報レベルの報告数が11週間継続しています。すべての地区で前週より増加し、10保健所のうち6保健所が警報レベル、3保健所が注意報レベルの報告数となっています。12月はインフルエンザA型の患者がほとんどでしたが、年始からインフルエンザB型の増加がみられている医療機関もあります。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

【トピックス】 感染性胃腸炎に注意しましょう。

感染性胃腸炎は、12月以降に患者が増加する傾向にあります。本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

例年冬期に患者数が増加するのがノロウイルスによる胃腸炎です。ノロウイルスの潜伏期間は1～2日で症状の持続期間は数時間～数日です。症状は他の胃腸炎ウイルスと同様に嘔気、嘔吐、下痢が主で、腹痛や発熱を認める場合もあります。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。

また、ノロウイルスは食中毒の原因としても検出されるウイルスです。ノロウイルスに感染した患者の手指から食品を介して感染します。

予防には、手洗いが重要です。手洗いを励行し、体調管理を行い、積極的な感染防止に努めましょう。

【トピックス】 急性呼吸器感染症(ARI)に注意しましょう。

急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection:ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎)または下気道炎(気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症などが含まれます。法律の改正により、令和7年4月7日からARIが5類感染症に位置づけられ、県内では51医療機関(ARI定点)から、1週間(月～日曜)にARIと診断された患者数が週に1回報告されています。

ARIに含まれるインフルエンザなどの感染症は、冬期に患者数が増加する傾向にあります。予防には、手洗いやマスク着用を含む咳エチケットなどの基本的な感染対策が有効です。ARIの中には、高齢の方や基礎疾患をお持ちの方が感染すると重症化するものもありますので、場面に応じた対策を心がけましょう。